

小関良兵衛塾

開設したのは維新前後で比較的新しい私塾です。師の良兵衛は社会的な活躍も目覚ましく、明治5年に長崎郵便取扱所の初代所長や長崎村の初代戸長を務めました。また、明治14年（1881年）「長崎中学校新築願」を山形県令の三島通庸に提出しています。多用のかたわら私塾を設け、漢学を教えました。

柏倉文次郎塾

この塾も維新前後の塾です。文次郎家は柏倉文蔵家の分家で現在の長崎西町に広大な屋敷を持つっており、漢学のほかに和算の大家でもありました。彼の教育方針として、個性に適した指導を行うとともに、優れた弟子たちを中央の指導者に紹介し便宜を図ったといわれています。のちの長崎学校の創設には多くの塾生とともに携わり、学校教育にも尽力しました。

多田つる子塾

前述の塾は漢学、和算、医学などを教授したのですが、ここに裁縫を主とし、加えて礼儀作法を教えた塾があります。江戸時代は女子で塾に通って習うのは極めてまれで、裁縫を習うにしても冬期間または農閑期を

利用して「お師匠」様について習うのが常でした。この風習は昭和10年代まで続き、近隣諸村の各地に「お師匠」といわれる方も少なくありません。しかし、酬恩碑まで建立され後世までその徳を慕われた人は多くありません。達磨寺の生家多田秀穂家の庭前に、多田つる子の碑が発起人斉藤やの子、国井とめ子によって大正4年に建てられました。彼女は安政年間に生まれ、大正7年に亡くなりましたが、針子は140名から150名に及んだそうです。開講していたのは明治年中のことです。

以上のような寺子屋・私塾のほかにいわゆるダンナ衆と呼ばれた人々が、冬期間や農閑期または夜間を利用して出入りの者に読み・書き・そろばんを教える風習もありました。

これらの師匠の酬恩碑は、円同寺、正法寺に各々2基、文新田2、柳町、元町、金沢、柳沢、土橋、達磨寺、平塩山崎、向新田に各々1基存在し、江戸中期以降の中山町内では、子弟教育が華やかであったといえます。

※引用 中山町史 中巻

第10章第2節 教育

私たち地域おこし協力隊です！ No.51

～ 北前いも煮お披露目販売 ～

皆さんこんにちは。地域おこし協力隊の伊藤です。

最近は少し肌寒い季節となり、芋煮会のシーズンにも突入しました。

中山町でも、先月9月19日は、3年ぶりに元祖芋煮会が開催され、多くの町内外のお客様ににぎわいました。その元祖芋煮会で、レトルト芋棒煮「北前いも煮」がお披露目となり、限定で販売しましたが、召しあがった方々からは大変好評をいただきました。

「北前いも煮」は、私が所属している中山町観光協会芋煮会振興部会で、昨年10月頃から開発を進め、さまざまな関係者のお力添えをいただきながら完成しました。

今後は、町の特産品の一つになれるように販路開拓、商品のブラッシュアップを続けていきたいと考えておりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



北前いも煮レトルトパック

●協力隊への問い合わせ先●

伊藤 ☎662-2114 (産業振興課) / 稲垣 ☎662-2235 (教育課) / 高橋 ☎662-2223 (総務広報課)